

臨南寺縁起ものがたり



臨南寺は、正保二年（一六四
五）萬安英種禪師を御開山、鈴木重成公を御開基とし、重成公の実兄鈴木正三師の協力を得て、曹洞宗の寺院として開かれまし
た。

御開山の萬安英種禪師については表紙でご紹介しました。御開基の鈴木重成公と鈴木正三師についてご紹介しておきましょう。

天草復興に尽力した鈴木重成公

鈴木重成公は、正式には鈴木三郎九郎重成といい、文祿三年（一五九四）に三河の剛定村（現在の愛知県東加茂郡）に生まれています。慶長十九年（一六四四）より家康に仕え、大坂冬の陣、夏の陣、鳥原の乱などに陣しました。

家光が三代将軍になると、信州伐木奉行、御納戸頭、大坂代官を歴任。寛永十八年（一六四一）初代の天草代官として赴任、鳥原の乱で荒廃した天草復興に力を注ぎます。鳥原の乱の原因に過重な年貢がありました。重成公が自ら検知したところ、表面石高の半分もありません。

その後十二年あまり、開墾・干拓に努めながら、重成公は幕府に「石高半減」の上申を繰り返し返しますが、なしの礫。承応二年（一六五三）重成公は病床から老中に訴えますが、受け入れてもらえず、死をもって民衆を救おうと、自邸で割腹自害。

万治二年（一六五九）「石高半減」を実現。天草の領民は、正三、重成、重辰の遺徳を偲び、島内三十余カ所に鈴木神社を築いて祭りました。

仁王禪で有名な鈴木正三師

正三師は出家してからも俗名のまま通した、反骨の禅僧です。その禅風は「仁王禪」と呼ばれます。憤怒の表情で仏敵に挑む仁王像を手本に、「仁王坐禪をなすべし」と説きました。強い心で気合を入れないと、煩悩に勝てないというのです。

念仏の効用も説きました。阿弥陀仏にすがる他力本願ではなく、「念仏に勢いを入れて南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と唱うべし。この如くせば、妄想いつ去るとなく自ずから休むべし」と。

正三師は天正七年（一五七九）に三河に生まれ、二十二歳のとき徳川秀忠軍に加わります。関が原に向かいますが、信州上田城で真田昌幸軍に阻まれてしまいます。大坂夏の陣で、秀忠の先陣として武功をたて、



▲鈴木キリシタンのお地蔵様

二〇〇石を賜り、三十七歳で直参旗本となりました。元和六年（一六二〇）四十二歳のとき、旗本大番に列せられながら、妻と三人の子供を棄てて、突然出家してしまいました。

合戦のあいまに多くの禅僧を訪ね、学びました。萬安英種禪師と出会い、お互いに影響しあい傾倒したのもこのころ。これが後に重成公を介して臨南寺の開山につながっていったのです。

臨南寺の境内には樹齢七〇〇年という椎の太木がありました。昭和二五年のジェーン台風で倒れました。いまは白蛇の宿る神木として地上に横たえられています。弁財天や馬頭観音、隠れキリシタンのお地蔵様など数多くの史跡があり、大勢のお参りをいただいています。

現在は長居公園のなかにあり、敷



年頭所感 見えないご縁

宮松山 臨南寺住職

渡邊 剛毅

新年明けましておめでとうございます。

小納も大本山總持寺監院に就いて三年目を迎え、昨年は大本山永平寺ご開山道元禪師さまご生誕八〇〇年の慶讃法要。大禪師宛下の代理として大本山總持寺祖院御征忌会を営弁。大本山總持寺ご移転九〇年記念法要。香積台改修工事落慶法要。さらに独住二十一世真源宏宗禪師さま本山葬・茶毘式礼と、諸行事に明け暮れる毎日でした。その間、臨南寺の檀信徒の皆様には、よく寺を護持していただき、心より御礼申し上げます。

多くの方々との出会いと別れがありました。それぞれが忘れ難い思い出として、心に残っております。

人は、他の人のお世話なくては生まれることすらままありません。なかにはお尻を叩かれてやっと産声を上げる人もいます。死ぬときも、自分のお骨を自分では拾えないこと、また然りです。

生きているあいだは、衣・食・住から喫喫にいたるまで、すべて誰かの恩恵に浴しています。人のご縁は、ほとんどが自分自身の気付かないところから始まり、結ばれています。

目の前の人々とのご縁、見えないところで結ばれているご縁。これら縦横に織りなされているご縁に支えられているという自覚と、感謝を忘れずに、新世紀もご一緒



天橋

臨南寺行事予告

臨南寺役僧 川岸裕興

● 弁天様祈禱会 一月十五日

当山では毎年一月十五日、弁財天をお祀りし、「大般若波羅密多經」六〇〇巻の五七八「般若理趣分」を転読します。

弁天様は、七福神のひとつで、インドの聖なる川サラスヴァティーを神格化した水の神。当山のものは、八本の腕に弓・刀・芥などの武器を持つ一面八臂像です。言語、知識、音楽をつかさどり、怨敵を滅ぼし、福德・財宝を授けるとされます。学問、文芸、芸術の守護神として信仰があります。

この国が安らかで穏やかに、すべての国が平和の世を楽しみ、すべての事柄がめでたく幸せでありますように——檀信徒のみなさまや参詣者の方々の身体健全と家門隆盛、家内安全を祈念する法要を行います。

● 彼岸会 三月二十四日

● 親子坐禅会 四月八日

坐禅のあと、絵手紙など楽しい催しをご用意しています。

「ほりつと」発行を祝して

東洋文化研究所研究員

駒澤短期大学教授 片山晴賢

このたび「ほりつと」が創刊されたこと、誠におめでとうございます。この機関誌を発行されるにあたり、機関誌名をはじめとして、どのような記事をいれるかなど、いろいろと議論を重ねられたことと推察いたします。

創刊号の特集「土に還るといふこと」の記事、大変興味深く拝読しました。特に、個人の負担をできるだけ少なくしながら、なおかつ心のこもったお祀りをめざす「がつしょう園」に期待がふくらむ思いがしました。

この機関誌「ほりつと」が、今後とも永く発行を続けられ、読者の立場に立った記事ができるだけ多く取り上げて、「ほりつと」愛読者の輪を広げられますよう、祈念いたしております。

台掌

▼子どもたちが、ひとりひとり作ったお正月の飾り。わいわい賑やかに楽しみました。
なかなかの出来栄にみんな大満足。



親子坐禅会

「できるかどうか心配だった」
親も子も心が洗われる坐禅体験。

十二月八日(日)、臨南寺本堂で親子坐禅会が開かれました。普段やんちゃな子どもたちも、背筋を伸ばして坐禅にチャレンジ。「足がしびれたけど気持ちよかったです」寒さも吹き飛ばす楽しい一日になりました。

まず般若心経を読む

本堂に灯明がともされ、役僧の川岸さんの先導により、木魚の音にあわせて全員で般若心経を唱和します。

少し心が落ち着いたところで、坐禅の仕方を教わりました。

正式にはいろいろな決まりがあるようですが、子どもたちはあまり拘らないでいいということでした。しかし、初めての子どもたちも、見極め見真似ながら一応のかたちになっているから不思議です。

鐘を合図に

灯りが落とされて鐘が響くと、静寂があたりを包みます。自然に背筋が伸びて、気持が静まっていくのを感じます。十五分か二十分、足がジンジンしはじめたころ鐘が再び響きます。休憩の合図です。5分休憩して二度目の坐禅が始まります。

無心の境地には遠いけれど、快い緊張感がなんともいえません。子どもにとっても親にとっても、普段味わえない貴重な体験でした。



体験トーク

東住吉区

古田 盛彦さん

裕子さん

小学四年、二年、一年の子とも三人と参加しました。今日が2回目です。

一回目はゆらゆらしないか酸っぱいかな、と子どもが気になったのですが、今日はまったく気になりませんでした。

坐禅のあとの工作会もいいですね。何十年ぶりかで、手が震えました。子どもにもエラそうにいえなくなりそうです。

子どもたちが辛抱できるか心配でしたが、大丈夫でした。いい経験になると思います。こんな機会は滅多にないので、また参加したいですね。大人の坐禅会も開いていただけると有難いのですが……。

編集室から

前号の「ほーっと」のアンケートのご回答ありがとうございました。たくさんの方々から「ほーっと」を読んでもくださったことが、ハガキを通じてよくわかりました。一言添えられているお言葉がともうれしく、思わずウルウルときてしまいました。今後の「ほーっと」を後押ししてくださっているようで、とても心強く感じました。

これからもいろいろな形で、皆様とコミュニケーションがとれるように、作ってゆきたいと思えます。皆様が日常の生活で「??」と思っていることや、心に残った出来事などを、「ほーっと」編集部までお寄せください。

はがき、ファクス、EメールもOK、氏名、住所、電話番号をお忘れなく。

今回の親子坐禅会には、マクドナルド長府公園通り店様にご協力いただきました。お礼申し上げます。

「ほーっと」第2号

平成13年1月

発行 樓伽林

(りょうがりん)

〒546-0034

大阪市東住吉区長府公園1-32

☎ 0120-711-493

FAX 06-6697-3330

Eメール

ryougarin@shuanden.co.jp